

豊田市におけるエコ通勤をすすめる会の取り組み



～エコ通勤推進組織の活動と運営課題～

山崎基浩 ((公財)豊田都市交通研究所), 柳富美夫 (豊田市都市整備部交通政策課), 小田康夫 (豊田商工会議所総務企画部), 伊豆原浩二 (名古屋産業大学), 國定精豪 ((公財)豊田都市交通研究所), 加知範康 ((公財)豊田都市交通研究所), 西堀泰英 (中央復建コンサルタンツ (株))

「豊田市エコ通勤をすすめる会」の設立の背景と経緯

「すすめる会」設立の背景と経緯

- ・ 渋滞対策から始まった豊田市の「エコ通勤」
 - 朝夕ピークの渋滞問題(分散した大量トリップの時間集中)
 - ソフト的な渋滞対策「TDM」にいち早く取り組んだ豊田市 (H6～: 社会実験, H8: 「TDM勉強会(後に研究会)」設立)

TDM 研究会の取り組みで見えてきた課題

- ・ **官民協働の議論の場がつけられた**
 - 事務局と事業所との温度差
 - 社会実験実施の調整協議の場に止まる
- ・ **TDMという概念、手法を普及**
 - 特定の参加事業所に対して
 - しかし事業所自らの取り組みは?
 - 従業員にとっては、事業所の通勤制度もネックとなっている
- ・ **少数ながら、主体的に取り組もうという事業所が出現**
 - やる気のある事業所を牽引役に!

「エコ通勤をすすめる会」の設立

【目的】産官の共働によりエコ通勤を推進し、豊田市内の道路交通混雑の緩和や公共交通の利用促進、環境負荷の軽減を図ることを目的とする。(各事業所が主体的・自主的に取り組む)

【会長】名古屋産業大学教授 伊豆原浩二
 【副会長】豊田商工会議所常務理事 永田勇夫
 【事務局】豊田市交通政策課, 豊田商工会議所, (公財)豊田都市交通研究所

【参加条件】

1. 事業所の参加登録シートの提出。(意思の確認)
2. 原則として、豊田市内の事業所を対象。
3. 具体的な通勤問題(駐車場不足、交通渋滞等)を抱え、対策を実施、または実施したいと考えている。
4. 事業所として、通勤問題の解決に向けた意欲がある。
5. 3ヶ月に1回程度開催の会議へのご出席が可能。
6. 自社の取り組みを会議で公表できる。

「豊田市エコ通勤をすすめる会」の活動と「ecommuter (エコミューター)」の展開

「すすめる会」の活動と「エコミューター」

【エコ通勤している人・していない人のワケ】

- エコ通勤していない理由**
 - ・ 公共交通が不便。
 - ・ フルマ以外、頭がない。
 - ・ フルマに慣れていない。
 - ・ 荷や荷物がある、フルマが便利。
 - ・ 業務でマイカーを使う。
 - ・ メリットがない。
- エコ通勤している理由**
 - ・ 公共交通利用の環境が整っている。
 - ・ 自転車やバイク、かつ雨なら公共交通を使う。
 - ・ 徒歩、自転車の楽しさ、公共交通に慣れている。
 - ・ 時間が正確。

【事業所としての課題】

- エコ通勤の障壁**
 - ・ 社内のエコ通勤への意識がまだ低い。
 - ・ 勤務が深夜に及ぶ。
 - ・ フルマの方が通勤手当の負担が少ない。
 - ・ 業務用車両が不足。
 - ・ 駐輪場や更衣室未整備。
 - ・ フルマ通勤の環境を整えている。
- なぜエコ通勤すべきか?**
 - ・ 駐輪場の確保ができない。
 - ・ 近隣住民への迷惑問題。
 - ・ 法人としての環境への取り組み。
- どうしたら促進できる?**
 - ・ 従業員のメリット、会社のメリットを。
 - ・ 従業員の自主性一意識改革を促すPRが必要。
 - ・ 公共交通を使いやすくする(便数、路線、時間帯、運賃)。
- 事業所として、何が出来るか?**
 - 【第4回「すすめる会」までの宿題→持ち帰って検討】

「第4回すすめる会」でのグループディスカッションの様子と討議結果

- ・ これまでに10回の会議を開催
- ・ 他都市事例の勉強、グループディスカッションによる問題、課題の抽出
- ・ 各事業所が対策案を検討(対策案検討シートの作成)
- ・ 会員である交通事業者から、公共交通利用策の提案

事務局からの対策メニュー提示(自転車共同利用)

＜出勤時のイメージ＞

＜帰宅時のイメージ＞

H21年度「コンビデケッタ」の実施イメージ

※ H21年度は「あいちエコモビリティライフ促進モデル事業」として、H22年度は「公共交通利用促進モデル事業」として実験を実施。

- ・ 鉄道駅端末交通としてシェアリング
 - H21年度「コンビデケッタ」: 駅へのアクセス・イグレス手段として共同利用(個人利用)。
- ・ 事業所が主体となって自転車を活用(口頭発表1にて報告)
 - H22年度「駅から自転車」: 業務利用も含め、事業所で自転車を管理しながら共同利用する仕組みの検証。

PR活動「エコミューター(ecommuter)」の展開

- ・ 目的
 - 取組みの見える化(PR)→エコ通勤を多くの人に広める。
 - 通勤者個人の「遊び心」に訴えながら、エコ通勤に対する意識を高める。
- ・ 実施内容
 - ポスター、チラシ、クリアフォルダの作成と配布
 - 小冊子の刊行
 - 飲食店協賛企画(タンブラーのプレゼント)
 - ラジオCMと時報によるPR
 - Webサイトの設置と ecommuter 会員の募集

PR活動「エコ commute (ecommute)」の展開

小冊子

- 小冊子、ポスター、チラシ、クリアフォルダの作成と配布

ポスター(名鉄豊田市駅)

チラシとクリアファイル

PR活動「エコ commute (ecommute)」の展開

ラジオCMと時報によるPR

- コミュニティFM局 ラジオ・ラビートで時報・CMを放送
- ポスター等に起用した鈴木華子さん(ミス日本ネイチャー)のアナウンスによる放送

INTERVIEW

エコ通勤プロジェクト「エコ commute」ラジオ・ラビートスペシャルインタビュー

ミス日本ネイチャー 鈴木華子さんインタビュー

豊田在住のミス日本ネイチャー 鈴木華子さんに、今の活動や豊田の街について聞いてみました。

まずは、ミス日本ネイチャーについてどんなことをお話ししてか教えて下さい。

ミス日本ネイチャーは、ミスコンテストの一種で、ミスコンテストのなかから選ばれた女性の中から、ミス日本ネイチャーを選出する。ミス日本ネイチャーは、ミスコンテストの一種で、ミスコンテストのなかから選ばれた女性の中から、ミス日本ネイチャーを選出する。

鈴木さんにとっての豊田の街はどのような街ですか？

豊田は、自然豊かな街で、お天気に恵まれているのが好きです。また、お天気に恵まれているのが好きです。また、お天気に恵まれているのが好きです。

鈴木さん、エコ通勤プロジェクトにご参加のきっかけは？

エコ通勤プロジェクトに参加したのは、エコ通勤プロジェクトに参加したからです。エコ通勤プロジェクトに参加したからです。

鈴木さん、エコ通勤プロジェクトに参加のきっかけは？

エコ通勤プロジェクトに参加したのは、エコ通勤プロジェクトに参加したからです。エコ通勤プロジェクトに参加したからです。

鈴木さん、エコ通勤プロジェクトに参加のきっかけは？

エコ通勤プロジェクトに参加したのは、エコ通勤プロジェクトに参加したからです。エコ通勤プロジェクトに参加したからです。

PR活動「エコ commute (ecommute)」の展開

Webサイトの設置と ecommute 会員の募集

- 「豊田市交通まちづくり推進協議会」が主体として設置していた「チャレンジ！エコ通勤」サイトに代えて
- 遊び心を持たせ様々なキャンペーンを展開しながら、簡易な実績報告でエコ通勤の効果を「見える化」する

みんなでエコ通勤をしようよ。

エコ通勤のメリット!

お知らせ

「豊田市エコ通勤をすすめる会」の取り組み実績・課題と今後の展開

取り組みの実績

新たな会員事業所の参画とエコ通勤のPR

【新たな会員事業所の参画(会員事業所数の増加)】

- 21事業所で立ち上げ → 3事業所が新たに参画し24事業所に(H22)
- 新規参加事業所の中には、「エコ通勤優良事業所認証」を既に得ている事業所あり → 他事業所への波及効果を期待
- 比較的小規模な事業所が、今後の参加意向を持つ。

【エコ通勤のPRによる認知度向上】

- イベント時(産業フェスタ)に「エコ通勤」のPRを兼ねてアンケート実施。
- 調査員が回答をヒアリングしながら、「エコ通勤」について解説。
- 約600名のうち半数以上の「よく知らない」人たちにPRできた。

5. 運営課題と新たな展開に向けた方針

| 昨年度の実績 | 重要事項など | 今年度の予定 | 目標に向けた課題 |
|--|--|--|--|
| A 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 他の事業所の状況を調査し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) |
| B 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) |
| C 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) |
| D 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) |
| E 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) |
| F 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) |
| G 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) |
| H 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) |
| I 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) | 活動距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への対応を促す(エコ通勤手帳の活用) |

「エコ通勤実践目標管理シート」を眺めてみる...

- 提出は事務局除く21事業所中、9事業所。
- 具体的な目標設定ができない、積極的に取り組めない事業所あり。→ 既にできる限りの対策を実施済み(事業所や、社内運営陣の理解が得られない事業所も)。
- エコ通勤の冊子やポスターの活用はある程度されていた。
- 比較的小規模な事業所で具体的な対応がある。
- 新しく参加した事業所に積極的な姿勢がみられる。

新たな展開に向けた改編の検討(現在進行中)

【すすめる会の構成の改編方針】

■これまでの「すすめる会」

豊田市エコ通勤をすすめる会

【事務局】 豊田市、豊田商工会議所(公財)豊田市交通研究所

【会員事業所】 会員事業所、会員事業所

【会議の企画】 PR企画の実施、会員事業所サポート

【各々の事業所内でエコ通勤の促進に取り組む】

■これからの「すすめる会」

豊田市エコ通勤をすすめる会

【事務局】 豊田市、豊田商工会議所(公財)豊田市交通研究所

【(仮)エコ通勤をすすめる企画委員会】 豊田市、豊田商工会議所(公財)豊田市交通研究所

【主力事業所】 主力事業所、主力事業所

【会議の企画】 PR企画の実施、会員事業所サポート

【自社取組みに限界 → 会の取組み企画への参画、自社で積極的に取組む → 事例として提示しながら】

【登録をすすめる】 多くの事業所の登録をすすめる

【一般会員事業所(多くの事業所が会員登録)】 A: 優良事業所認証を目指す B: エコ通勤推進を宣言

【事務局】 豊田市、豊田商工会議所(公財)豊田市交通研究所

【会議の企画】 PR企画の実施、会員事業所サポート

会員事業所の具体的な取り組み

【事業所A: 社内組織による具体的な通勤対策検討】

- 従業員増員計画による駐車場不足や近隣の渋滞問題への対応として、エコ通勤対策を検討。→ エコ通勤プロジェクト実施
- 社内「渋滞対策委員会」を設置し、関係部署が連携して検討。

【事業所B: エコ通勤促進のインセンティブ設定】

- 駐車場確保に係る負担軽減のため、自動車通勤から自転車通勤への転換者に対して「エコ通勤手当」を導入。
- 駐輪施設を整備。(5名が自転車に転換)

【事業所C: 職員駐車場削減に伴う駐車場配分基準変更】

- 職員駐車場の約30%が不足する事態が発生。→ 新たに駐車場確保するのではなく、駐車場配分基準を厳格化し、総量削減。
- 鉄道駅1km未満 → 1.5km未満 / バス停500m未満に居住する職員には駐車場を配分しない、など。

エコ通勤をすすめる会の運営課題

【現状の考察】

- 今年度の活動のために提出を依頼した管理シートの提出率、会議の出席率ともに低調。→ 参加意欲ある事業所と無い事業所の格差大
- 発会当時の趣旨である「事業所自らが主体となって積極的にエコ通勤に取り組む姿勢」を持った事業所が減少している。→ 今以上に社内展開できない、経済情勢・震災対応でそれぞれではない
- 会に参加するメリットがなくなった。→ 先行する事業所は既に手を尽くし、社内展開できない事業所は身動きとれず...
- エコ通勤の活用はある程度なされ、一般市民への訴えかけのツールとしても必要と考える。

➢ 会の方針、運営方法について、根本的な見直しが必要。

◆ 参加のハードルを下げ、会員数を拡大。

◆ やる気のある事業所は「優良事業所認証」を目指す。